

**科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業  
第3期中期計画フォローアップ（令和5年度実績）**

**1. 令和5年度における活動の概要**

（総括）

**①人材育成**

（活動の概要）

（KPIの達成状況）

**②研究・基盤**

（活動の概要）

大学・公的利用機関に関するデータ整備については、大学・公的機関名辞書の更新・公開を行うとともに、利用者の利便性向上のための取組を実施した。大学・公的機関名辞書は、令和5年7月、令和6年1月に更新版の公表を行った。大学・公的機関名辞書を用いた名寄せプログラムについては、前年度から引き続いて利用を希望するユーザによる利用を進めた。本年度は、大学のユーザを中心に、大学の下部機関についての情報の増強を望む意見が多かったことを踏まえて、利用者の利便性を向上するために、ユーザ独自辞書作成機能を開発し、登録ユーザを対象に令和5年9月に公開した。

産業の研究開発に関する基盤的なデータ整備については、企業名辞書の掲載基準を新たにクリアした企業を追加して調査をし、企業名辞書の最新化を行ない、令和5年9月に公表した。また、本年度は、欧州特許庁が作成・公開している国際的な特許データベースであるPATSTAT Globalと企業名辞書のデータ接続に関する調査・検討を行い、一つの発明から複数の国や地域に特許出願されたいわゆる“パテントファミリー”のデータセットを新たに作成した。

政策形成に資する基盤整備及び総合的利用の推進については、これまで数年ごとに成果報告書を公表してきており、その最新版として、令和元年度から令和4年度までの取り組みと検討結果を報告書（NISTEP NOTE）としてとりまとめて令和5年12月に公表した。また、科学技術基本政策に関する基本的な文書を収録し、検索できるシステムである「科学技術基本政策文書検索」を構築し公開してきたが、本年度は、統合イノベーション戦略2023を収録対象として追加した。また、継続的に更新してきた「科学技術・イノベーション白書検索」については、令和5年版についてのデータを更新した。

博士人材に係る調査研究としては、令和3年度博士課程修了者に対し、修了から1.5年後の雇用状況、処遇等の追跡調査を実施した。また、令和4年度に実施した博士課程1年次における進路意識と経済的支援状況に関する調査の結果を報告書として令和5年10月に公表するとともに、令和5年度分の調査を実施した。さらに、博士人材の活躍状況を把握する情

報基盤である博士人材データベース（JGRAD）について、引き続き運用している。

NISTEP 定点調査については、第6期科学技術・イノベーション基本計画中に行う NISTEP 定点調査の2回目となる NISTEP 定点調査 2022 の結果を公表した。NISTEP 定点調査 2022 では、基本計画中に継続的に問う定常質問に加え、調査時点の状況を踏まえ、研究者個人を対象とする業績評価、研究面からみた大学の強み・特色、大学・国研等の国際化を組織的に進めるにあたっての課題についての深掘調査も行った。また、3回目となる NISTEP 定点調査 2023 の準備及び実施をした。同調査では、研究時間を圧迫する要因と研究時間確保に向けた取組、科学技術を基にした地域創生、論文のオープンアクセス義務化に関する現場の状況と意識についての深掘調査も行った。

(KPI の達成状況)

KPI は設定していない。

### ③共進化

(活動の概要)

令和4年10月から、C4RA（各大学等のリサーチ・アドミニストレーターが実務向上を目指して活動している有志の集まり）と月1回ペースで情報交換会（オンライン）を継続的にを行い、実務実情及び機関名辞書活用向上に向けた知見を得た。大学のユーザを中心に、大学の下部機関についての情報の増強を望む意見が多かったことを踏まえて、ユーザ独自辞書作成機能を開発し、登録ユーザを対象に令和5年9月に公開した。

博士人材追跡調査等について、共進化の実現の観点から、行政ニーズに的確に応え、政策担当者との対話・連携を進めた。また、令和3年度から引き続いて、GRIPSが実施している共進化プロジェクト「研究開発プログラムの開発・評価に資するエビデンス構築の研究」に研究協力者として参加した。

(KPI の達成状況)

KPI は設定していない。

### ④ネットワーキング

(活動の概要)

令和4年10月から、C4RA（各大学等のリサーチ・アドミニストレーターが実務向上を目指して活動している有志の集まり）と月1回ペースで情報交換会（オンライン）を継続的にを行い、実務実情及び機関名辞書活用向上に向けた知見を得た。

エビデンスに立脚した科学技術イノベーション政策の強化のためのデータ・情報の整備と活用の促進を目的として、令和4年度に立ち上げた専門家による検討グループによる検討を引き続き行い、整備しているデータ・情報基盤のデータ構造の改善や国際的なデータ連

携を可能にするための方法等について検討した。

(KPI の達成状況)

KPI は設定していない。

⑤その他特記事項

特になし

## 2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

- ・データ・情報基盤の整備について、幅広い分析の基礎となるデータの整備を継続し、NISTEP の調査研究機能を強化し、様々な分析やより深い分析を可能とし、政策当局や外部機関等との協力や連携を進める。
- ・データ・情報基盤を整備するだけでなく自ら活用して調査研究を行うことで、データ・情報の機能や質の向上および活用促進につなげるために、国際的なデータ連携を実現するための方法等に関する研究を実施した。
- ・NISTEP 定点調査の結果は、科学技術・学術審議会 大学研究力強化委員会(令和5年6月)で報告を行った。また、大学・公的機関名辞書及び名寄せプログラムは、日本の科学研究力を検討する際の基礎的な資料(科学研究のベンチマーキング、大学ベンチマーキング等)を作成する際に活用した。さらに、修士課程在籍者調査の結果は文部科学省「博士人材活躍プラン～博士をとろう～」(令和6年3月)で使用された。
- ・大学・公的機関名辞書やそれを用いた名寄せプログラムについては、本事業で得られた成果が継続的に利活用されるように、C4RA(各大学等のリサーチ・アドミニストレーターが実務向上を目指して活動している有志の集まり)との継続的な情報交換会等を通じて利用者や利用事例の一層の拡大を試みている。また、大学・公的機関名辞書の整備を持続可能な形で実施するための方策についての検討を進めた。

### 3. 中期計画の見直しのポイント